

第3期 下北山村教育大綱

対象期間：令和8年度～令和12年度

下北山村総合計画 基本構想

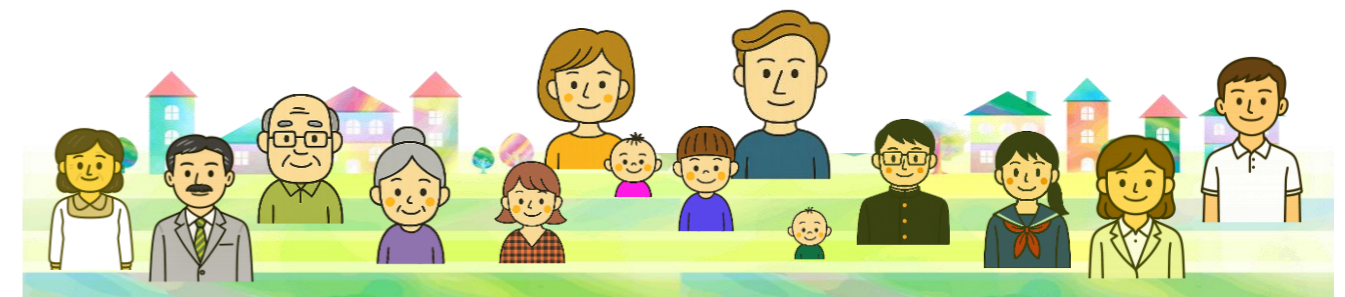
もう一度、森と人と生きていく。

風土文化を受け継ぎながら、みんな幸せに住み続けていけるきなりの郷



きなりの郷「下北山村」は、豊かな自然と歴史、文化を有する地域として、村民一人一人がふるさとへの愛着と敬意をもち、たくましく生きる力と、新たな価値を創造する力を育む教育を推進します。

- 確かな学力と変化の激しい社会を生き抜く力を育成します。
- 誰一人取り残されない教育を目指します。
- 下北山の歴史・文化・自然から学び、未来へ継承する人材を育成します。
- 家庭・地域の教育力を向上し、相互に支え合うための絆づくりを進めます。
- 生涯にわたる学び・スポーツを支援し、その推進を図ります。



自然と共生する暮らし

「きなり」は日本独自の価値観を表す言葉です。まぎりけがなく純粋であるということを意味します。

下北山村教育大綱

令和8年 策定

〒639-3803 奈良県吉野郡下北山村大字寺垣内1002

下北山村総務課

TEL 07468-6-0001 FAX 07468-6-0377

下北山村教育委員会事務局

TEL 07468-6-0901 FAX 07468-6-0424

～はじめに～

下北山村では、村の総合計画の基本構想である「もう一度、森と人と生きていく。風土文化を受け継ぎながら、みんな幸せに住み続けていけるきなりの郷」に基づき、令和8年度から令和12年度までの5年間を対象期間とする「第3期 下北山村教育大綱」を策定いたしました。

私たちの暮らしがある下北山村は、日本有数の多雨地域として知られ、豊潤で清らかな水が大自然を育てています。

この大自然を敬い、四季に寄り添い、伝統を受け継ぐという、現代社会が忘れかけたシンプルでナチュラルな「きなり」の営みが、今もここに息づいています。

激しい社会変化や人口減少が進むなかであっても、村民一人一人がこの豊かな自然・歴史・文化への愛着と敬意をもち、たくましく生きる力や新たな価値を創造する力を育む教育を推進することは、持続可能で活気ある村づくりに向けて極めて重要です。

近年は、デジタル技術やグローバル化の進展により世の中の変化が格段に速くなっています。本大綱では、こうした時代の変化に主体的に対応しつつ、下北山の強みを活かした新たな教育施策を盛り込みました。

具体的には、学校・家庭・地域・行政が一つの「学びの共同体」として結びつき、村全体で子どもを育てる「夢教育エコシステム」の構築を目指します。また、世界遺産『大峯奥駈道』や豊かな森林を多様な視点から紐解く『下北山 STEAM 郷土学』の推進、新たに整備された下北山村民体育館を拠点とした全世代のスポーツ・文化活動の充実など、子どもから高齢者までが共に学び、生きがいをもって地域に貢献できる循環をつくってまいります。

誰一人取り残さないインクルージョンな環境をつくり、生涯にわたるウェルビーイングの土台を築くことで、すべての人が「ここにいていいんだ」と心から実感できる安心な村の基盤を築いていく所存です。

今後の教育行政につきましては、本大綱によって目指すべき方向性を共有し、学校、家庭、地域、行政が双方向に支え合いながら、一丸となって各施策の推進を図ってまいります。村民の皆様におかれましては、今後とも温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年6月

下北山村長 南 正文



5 下北山 STEAM 郷土学

～郷土を学び、未来をつくる～

郷土の自然や文化を活かした探究的な学びを通じて、村民が生涯にわたり学び続け、地域に誇りと生きがいをもてる未来をつくりまします。

生涯学習の観点に立って、下北山村が誇る世界遺産『大峯奥駈道』をはじめとする悠久の歴史、豊かな森林や伝統風土を次代へと継承します。これら地域の資源を科学や芸術、技術などの多様な視点から紐解く『下北山 STEAM 郷土学』を推進し、子どもから高齢者までが共に問い、創り出す探究的な学びを展開します。そして、村民一人一人が生涯にわたり学び、生きがいをもって主体的に『人づくり、地域づくり、村づくり』に参画する未来を創造します。

(1) 世界遺産「大峯奥駈道」と豊かな森林に学ぶ探究活動

世界遺産をはじめとする村の歴史・文化・自然環境を「生きた教材」として活用し、その保存と活用を通じて、郷土への誇りと未来を切り拓く STEAM の視点を養います。

(2) 本とつながり人が集う…「ぼこぼん図書館」を活用した読書活動の推進

学校や地域と連携した絵本の読み聞かせなど、子どもから大人までが本に親しむ活動を推進するとともに、蔵書の充実を図ります。

(3) 「下北山型」放課後・夏休み学び事業の充実

放課後子ども教室や寺子屋事業、森林体験事業を融合・深化させ、子どもたちが日常のかつ体験的に「郷土の魅力と最先端の学び」に触れられる環境を整えます。

(4) 地域文化施設の活用と生涯学習を通じた村づくり

公民館教室の充実や、杉岡華邨記念館・歴史民俗資料館の魅力を活かした学びの場を創出し、村民が生涯にわたり学び続け、生きがいをもって地域に貢献できる循環を推進します。

6 スポーツと文化で

未来をつなぐ

自然と文化を活かした学びとスポーツ・地域活動を通じて、心身の健康を維持し、生きがいと地域への誇りを育み、だれもが安心して暮らせる持続可能な村を目指します。

人生100年時代を迎え、村の持続可能な活性化には、全世代の心身の健康と生きがいづくりが不可欠です。令和7年度新たに整備された下北山村民体育館を拠点とし、村民がいつでも、いつまでもスポーツやレクリエーションを楽しめる環境を充実させます。また、近隣の歴史遺産などを歩く活動や、村の伝統的な行事・サークル活動を活性化させることで、人と人が繋がり、誰もが生き生きと安心して健やかに暮らせる村の未来を紡ぎます。

(1) 下北山村民体育館を活用した健康・交流拠点の創出

新たに整備された体育館を拠点として、村民が年間を通じて気軽に親しめるスポーツ環境を整え、軽スポーツ大会等の実施により、健康増進と多世代の絆を深めます。

(2) 世界遺産を歩む健康づくりと郷土愛の醸成

奈良が誇る歴史や自然を感じながら歩く「歩け歩こう大会」等を充実させ、日常的な体力向上とともに、世代を超えて村の魅力と爽快感を分かち合う機会を広げます。

(3) 生きがいを広げる地域の文化・サークル活動の支援

住民が主体となって行う芸術・芸能活動やレクリエーション、村の祭りなどのコミュニティ活動を応援し、多世代が主役となって輝ける生きがいのある暮らしを推進します。

※1 教育エコシステム：学校、家庭、地域、行政などが孤立せず、互いに連携して子どもたちの学びを支える社会全体の仕組みのこと
※2 ウェルビーイング：「こころ」「からだ」「社会的なつながり」が健やかで満たされている状態を指す
※3 インクルージョン：多様な人々がお互いの違いを認め合い、対等に尊重され、能力を発揮して活躍できている状態
※4 STEAM：科学・技術・工学・芸術・数学の5つの領域

※1 1 夢教育エコシステム

～村みんなで子どもを育てる～

学校を核とした地域のコミュニティづくりを推進し、学校・家庭・地域・行政が学びの共同体となり、双方向に支え合う仕組みをつくりま

子どもたちの夢を村の真ん中に置き、学校・家庭・地域・行政がひとつの有機的なネットワーク（エコシステム）として結びつき、互いの境界を越えて学び合い、支え合うことで、地域全体が子どもを育てる土壌となり、夢に向かって挑戦し続ける力を共に育てていきます。

(1) 「下北山夢学」の展開

地域の資源を活かし、子どもたちが主体的に村の未来を共創する循環型の探究学習を推進します。

(2) 「村中キャリアネットワーク」の構築

村全体を学びの場とし、多様な大人との対話を通じて、子どもたちが自らの夢を育み、挑戦できる環境を整えます。

(3) 「学びの循環」プラットフォームの形成（家庭・地域の教育力の融合）

学校を核として、多世代が互いに教え合い学び合う場を創出し、家庭・地域全体の教育力と活力を高めます。

(4) 「夢教育エコシステム」の基盤運営

コミュニティ・スクールを推進力とし、学校・家庭・地域・行政が一体となって学びの循環を支える持続可能な体制を確立します。

2 学力と生き抜く力

変化の激しい社会で生きるために、義務教育9年間の系統性を重視し、基礎学力とともに思考力・判断力・表現力を身につけていきます。

学校を核とした地域のコミュニティづくりを推進し、学校、家庭、地域、行政が学びの共同体となり、双方向に支え合う仕組みをつくりま

(1) 9年一貫教育による成長の最大化と包摂

義務教育学校の特性を活かし、学年の枠を超えた交流と一貫した指導体制を構築します。特別な支援を必要とする児童生徒も含め、全員が役割をもち、互いに認め合える集団づくりを推進します。

(2) 「個」に寄り添う深い学びと「伴走」

ICTを活用した個別最適な学習により、個々の習熟度や学習ペースの違いを認め、それぞれの「わかった」を大切にします。少人数ならではのきめ細やかな対話を通じ、自ら問いを立て解決する力を育みます。

(3) 世界を見据えた挑戦と多様性の尊重

海外短期語学留学を核として、異なる文化や価値観に触れることで、自分と他者の違いを認め、尊重し合う心を養います。国際的な感性を磨き、多様な人々と協働できる能力を構築します。

(4) 未来を創る情報活用能力とセーフティネット

デジタル技術を主体的に活用し、論理的な思考を養うとともに、ICTを孤立防止や学習支援のツールとしても活用し、いつでもどこでも誰とでも繋がれる安心感の中で、新たな価値を創造する力を育みます。

※2 3 ウェルビーイング教育

～心と体の元気～

自然の中で遊び、体を動かし、食べ物の大切さを学び、持続可能な地域づくりの基盤である、心身の健康、自尊感情、社会性を育みます。

きなりの郷の精神を受け継ぎ、次代へ引き継ぐために、道徳教育や豊かな体験活動をさらに充実させます。村の広大な自然や温かな地域社会との関わりの中で、子どもたちが自らの心身の健康に主体的に向き合い、自分を大切にするとともに、他者を思いやる社会性を育みます。幼児期から9年間の終わりまで、すべての『下北山っ子』が豊かな人間性とたくましい体を備え、自分らしく幸せに生きる（ウェルビーイング）ための土壌を、家庭・地域・学校が一体となって創り出します。

(1) 「きなりの郷」が育む豊かな体験と自尊感情の育成

村の豊かな自然環境をフィールドとした体験・交流活動を通じ、郷土の価値を体感するとともに、他者を思いやる心や自己肯定感を高めます。

(2) しなやかな心と体を育む健康教育の推進

児童生徒が自らの心身の健康に関心を持ち、互いを認め合える安心・安全な学校環境をつくることで、社会性や健やかな体を育みます。

(3) 就学前からつながる「下北山っ子」の育成

幼児教育からの円滑な接続（架け橋期教育）を重視し、遊びを通じた主体性の育成から義務教育学校での学びへと、生涯にわたるウェルビーイングの土台を築きます。規則で縛るのではなく、「自分も他人も大切にするためにルールがある」というウェルビーイングの視点から規範意識を育てます。

※3 4 人権×インクルージョン

～違いを認め合い、みんなが
安心できる村～

多様性を重視し、すべての子ども・大人が尊重され、安心して学び・働き・暮らせる村を実現します。

すべての村民が自分らしさに誇りをもち、互いの違いを豊かな個性として認め合えるインクルーシブな環境を創り出します。子どもたちが正しい人権感覚を身につけ、自他を大切にできるように日常の教育活動を充実させるとともに、教職員や村民一人一人の人権意識を高めます。学校・家庭・地域・行政が一体となり、障がいの有無や多様な背景に関わらず、誰もが『ここにいていいんだ』と心から実感し、支え合える安心な村の基盤を築きます。

(1) 自他を尊び多様性を認める人権感覚の育成

児童生徒が自己理解を深め、互いの違いを個性として尊重し合える教育活動を推進するとともに、教職員の指導力と人権意識の向上を図ります。

(2) 共に学び共に生きるインクルーシブ教育の充実

障がいの有無や個々の背景に関わらず、誰もが主体的に参加し、高め合える「ユニバーサルデザイン」の視点に立った学びの環境を整えます。

(3) 「チーム下北山」による安心のセーフティネット構築

専門機関や地域と緊密に連携し、いじめの根絶や不登校児童生徒へのきめ細やかな伴走など、誰一人孤立させない多角的な支援体制を確立します。

(4) 地域と響き合う人権尊重の精神の醸成

学校・家庭・地域が手を取り合い、日常のあらゆる場面で多様性や人権が尊重され、すべての人が安心して暮らし、自己実現できる社会づくりを推進します。